

IGF2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム 第 11 回会合 議事録

1. 会合の概要

日時： 2021 年 12 月 20 日(月)17:00～19:00

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数： 20

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

飯田	陽一	総務省
大橋	由美	個人
香月	啓佑	MIAU
兼保	圭介	NEC
河内	淳子	CFIEC
佐藤	信二	個人研究者
Suga	Yuji	Internet Initiative Japan Inc.
関	裕介	総務省
高松	百合	JPRS
立石	聡明	JAIPA
中田	諭輔	日本ネットワークイネイブラー株式会社
橋川	和利	ケーブルテレビ徳島株式会社
浜田	忠久	JCAFE
堀田	博文	JPRS
本田	聖	個人
前村	昌紀	JPNIC
森口	友里	株式会社インターリンク
森下	大	総務省
山崎	信	JPNIC
横澤	誠	Business@OECD/CFIEC Japan

司会進行： 前村 昌紀(JPNIC)

議事録案作成： 山崎 信(JPNIC)

2. 議論の概要

【前村】 皆さんこんばんは、5分になりましたのでそろそろ始めていったほうがいいと思いますので、始めさせていただこうと思いますが、冒頭に司会進行を、決めるということを一応やっておりまして、私が今日も司会ということでもよろしゅうございますでしょうか？

【立石】 よろしく申し上げます

【前村】 ありがとうございます。よろしくお願ひいたします。それでは進めてまいります。IGF2023に向けた国内IGF活動活性化チーム第11回会合ということになっております。アジェンダは今投影してもらってますけども、こんな感じになっていまして、本日の目的ですが、政府の状況をお聞かせいただくっていうのはちょっとそれが目的なのかっていうのはあれなんですけども、レギュラーでやっていただいているということと、それ以外に二つあると思ってまして、IGF2021報告会に向けた準備をするということ、これが多分メインだろうと思ってます。それで詳細のところを書き込んでいって、案内ができるっていう、今日の打ち合わせの内容を下に案内文ができるみたいなところがイメージとしてありますということです。もう一つは、金曜日、木曜日でしたっけ、多分金曜だったと思いますけど、本格体制というのか組織化という風なことでどういった形で機構を作っていくといいだろうかというお話を始めたところでありまして、それは前回のIGTF会合の議論でっていうのを昔15年ぐらいに前にやってたんですけども、要は有志の団体が集まって会費を集める形でファンドレイズして集まった会費分のスケールで仕事ができるようになるという風なことを考えているものです。それをもう少し進めていかなきゃいけないのかなという風に思っております。

それでは前回の議論の振り返りということで前回の議論を少し頭の中でレジュームというのかと蒸し返すという変な言い方ですけども、振り返ってみましょうかね。それで総務省さんからIGF2021に向けた対応状況などをを中心とした状況の報告を頂きました。IGF2021報告会に関しましては上村さんに前回プログラム構成の案を作っていただいてよろしいですか、という風に申し上げて作っていただきましたということですよね。それで、こういう風な構成にしようということで2021の振り返りっていうのを1時間ぐらいやると。どういったセッションを、日本としてこういうセッションをしたという話を聞きたいとかそういう風な意見があったということなんですけども、どういう風なところがメインとなるテイクアウェイだったのかというふうなことであったり、印象に残るセッションの紹介というふうな感じのことであろうと。同じ分量の60分で、テーマセッションとして国内のインターネットガバナンスに関する論点を洗い出すようなものを公募にするというのは、少し手間というのか実施規模が大きくなってしまいますので、報告会に関しては主催者である活性化チームの人たちで、この辺出したらいんじゃないのっていう風なことでやるといいんじゃないのかなっていう風な、そしてビジネスセッションとして国内の組織づくりの今後ということで本格体制と言ったり組織化と言ったりとその辺のこの議論もできた方がいいだろうなど。そういう風なことで構成案として固まったものをいただいています。ということで、軽量級の内容として早い時期っていうのは1月の後半で調整をするということで早速調整を回してもらっていますけども、本日期日まで決められたらなという風に思っております。主催は活

発化チームとするということで、それ以外のどこかが主催をするという構造ではなくて、このチームが主催をするという感じにするという風なことです。ということで、テーマセッションのネタ探しというのを少し遅れ馳せながらなんですけども、議論を先に投げてメーリングリストで少しネタ探しお願いし、ますというお願いをしております。それを今日今から見ようという風にしておきます。以上が前回はざっと振り返るとこんな感じだったのかなと思いますけれども、ご質問やお気づきの点などありましたらいただけたらと思います。

【前村】 いかがでしょうか。ないようでした。先に進んでまいりたいと思います。宿題の進捗確認なんですけども、山崎さんかいつまめますかね？

【山崎】 はい。大体残ってるのは議事録関係が多いんですけども、それプラス重要なのは今日向かっていうかこのテーマセッションのネタ探しっていうことだったんですけども、これは先週後半にメーリングリストでアイデア出しをお願いしましたが、まだ書き込みがない状況です。私の方で前回第 10 回での会合中に出た案とかは書いておりますけれども、まだまだ足りないところが多いので、そこは大至急埋めなければというふうな感じです。以上です。

【前村】 はい了解です。議事録に関しては、新たな議事録案っていうのが出てきたんですけど？

【山崎】 第 7 回について今コメント募集中です。

【前村】 そうですね、分かりました

【山崎】 もうそろそろコメント期間が終わり、そのあともう 1 週間ラストコール起こる期間ということで、それが終わるのは年を越しちゃいますんで、1 月になってからということになります。また年末年始皆様もし時間があればご確認いただければと思います

【前村】 はいありがとうございます。それでは次行きましょうか。政府としての検討状況の報告ということで毎回いただいております。飯田さんよろしいでしょうか。よろしくお願ひします。

【飯田】 はい飯田です。聞こえてますでしょうか。

【前村】 ばっちりです。

【飯田】 IGF2021 が終わって今報告の作成をしたりしてるわけなんですけども、やってみた感じとして、ものすごい量のセッションと情報が飛び交っており、各地域が、国ごとのコミュニティも結構報発信したりいろんな活動をしているものが垣間見えるところもあったので、一つは、タイミングをどうするかということもあるんですけども、各地域や国でどのコミュニティがどんな活動をしていてどんな状況なのか、というのを、これは直接総務省で調べるのも大変難しいかもしれないので、調査ができな

いかなと思っています。あるいは皆さんもユーチューブを見ていただいている方もいらっしゃると思うんですけど、すごい量のセッションやってまして、ここでいろんなことをみんなが言い合っていて、当然これがだんだんと色んな形でいろんなところで反映されてくるんだと思ってはいるものの、では一体今回の間でいったいどれだけのそのポイントやその指摘や問題提起やあるいは議論があったのか、ということも少し把握できないものか、という風にも考えていまして、こういうことをですね、年明け以降に何らかのいろんな方のご協力をいただいて調べていくことで、23年のIGFをどういう風に全体コーディネートするかという、基礎知識としていけないかなということの一つを考えています。あと当然ながら、省内の体制作りやそれを含めた日本全体のインターネットコミュニティとしての対処をするための体制作りというものを、だんだん進めていかなきゃいけないと。取りあえずすいません、2021の対応にここまで追われてしまったので、これも少し仕切り直しということはないんですけど、皆様のご尽力にですね、我々も少しでもサポートができるようにするために、これを改めて省内からしっかりと進めていこうということも考えていますが、ちょっと年明けの作業になってきそうだと思います。いずれにしても、最初の色んな知識はですね、情報の整理については皆様からもご協力いただくような形でやっていければいいなと思っていますので、またご相談したり、お願いできればと思っていますので、よろしく願いいたします。私からは以上です。

【前村】 飯田さんありがとうございます。そうですね、超大作なんですけど、結構セッション数も多いのですごい大掛かりになる印象がありますけどやっていますかね。

【飯田】 やり方にもよるだろうと思いますので。

【飯田】 大掛かりになるかもしれないですが、あとは時間とか手間との兼ね合いもあって、例えば2年かかって終わりましたっていうのはあまり意味がなくなってしまうので、そういう意味でやり方をちょっと工夫する必要があるかと。

【前村】 そうですよ。下期ということは、2ヶ月ぐらいで実施するみたいな感じのイメージですかね？

【飯田】 そこは人間がやる、まあ使ってもいいんですけど、できる作業のその量とかは兼ね合いがあると思いますので、今年度内に何ができて来年度に何をすべきなのかということと、当該年度になっちゃうと、もう調査しているという場合ではなくなると思われて、そういうことも実際の作業のスケジュールを逆引きする形で、どのくらい調査をして、それが実際に使えるような材料にできるのかどうかというのは、ある程度現実味を持って考えてから走り出さないといけないなと思っています。

【前村】 分かりました。状況をありがとうございます。何か他の皆さんからご質問やお気づきの点ありましたらいかがでしょうか。それでは飯田さんどうもありがとうございました

【前村】 続きまして、今回メーリングリストの方でもご紹介がありましたけども、河内さんが

MAG メンバーにおなりになったということで、この場でご挨拶していただくかなということ、このアジェンダがあります。ということで河内さんいかがでしょうか。

【河内】 聞こえてるでしょうか？昔は JISA という業界団体におりましたが、今国際連携推進センターという経産省関係の政策研究組織にあります。ずっとデジタル関連の政策については横澤さんが NRI にいらした頃からちょっと一緒にやってきております。けれども IGF 自体は加藤さんが最初のときにメンバーになられたりとか、あと、2006 年にアテネでやったとき参加して以来ですね、その後ちょっとごぶさたしてございまして、改めて来年から MAG メンバーということで、2023 年には日本でもやるということなので、ちゃんと勤めが果たせるかちょっと不安ではあるんですけども、皆様のご協力と、お力を拝借しまして、できる限りのことができればと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。加藤さんにはアメリカにいらした頃からずっとお世話になってございまして、それから望月さんにも横澤さん経由で少し前からいろいろご連絡させてさせていただいております。それから JPNIC さんは ICANN の報告会にはよく参加させていただいてたんですけども、このところこちらの組織に入ってから参加がちょっと離れてございまして、これからまた皆様に色々お世話になるとは思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

【前村】 はいありがとうございます。

【前村】 その他の方々からコメントありますか、ってほほほ横澤さんを指しているような気がしますが、横澤さんじゃないですか？

【横澤】 いやいやそんなでしゃばるようなものじゃないです。

【横澤】 結構少し間が空いて、やはり日本のプレゼンスを高めるためにはですね、もう必須の人材だということですね。是非私からも皆さんのご協力をお願いしたいと。多分ものすごい大変な河内さんの仕事を見てのものすごい大変だと思われますので、多分私だけでサポートっていうのも無理だと思います。皆さんのご協力を是非どうぞよろしく願いいたします。

【前村】 ありがとうございます。他の方々から何かコメントありますか？

【河内】 それともう一つちょっとあの少し別の話かもしれないですけど、先程ちょっと山崎さんに直前にお送りしたんですけども、お世話になっている産経新聞の記者の方がございまして、その方に加藤さんと望月さんとほという、横澤さんにインタビューしてもらって記事を書いてもらって昨日ネットに上がったみたいなので、後で山崎さん皆様に PDF になった記事がありますのでそれを共有していただければと思います。よろしく願いいたします。

【前村】 これがですね、共有が少しトリッキーなんですよね。というのは、メーリングリストがパブリックアーカイブなんで、パブリックに出しちゃったことになるんですね。ちょっと有料コンテンツ載せられないんじゃないのかなって想像しています。

【河内】 そうですか。あまり限定されてないということですか。

【前村】 はい。メーリングリストのアーカイブが誰からでも見られるっていう状態です。

【河内】 では何かしらの方法をご検討いただければ。

【前村】 分かりました。河内さんちょっと大変な仕事だなと。望月さんも八面六臂のご活躍をなさいましたけど、僕の近くでは、その頃は JPNIC の職員だった奥谷泉さんが MAG メンバーをやっていて、傍目に大変な仕事だなと思いながら、あまり上司として手伝えることもなく、やったので結構大変だと思うんですけど、少なくともインターネットガバナンスというところに関しては周りに手伝える方々というのは多分この辺にいらっしゃるんだと思いますので、色々話を回していただくと、我々もそれだけ見聞を広められるということにもなるんじゃないのかなと思いますので、ぜひともどうぞよろしくをお願いします。

【河内】 よろしくをお願いします。

【前村】 ありがとうございます。それでは次へ参りましょうか。IGF2021 カトヴィツェの振り返りということで、どうしましょう。では登壇者からの感想と参加者からの感想ということで、ざっと何かあれですね、無骨にというのか書いてありますけど、登壇なさった方ってこの中でどなたかいらっしゃるでしょうかね？もしいらっしゃったらどんな感じだったかっていうのを発言していただきたいんですけど、いかがでしょう。

【前村】 既にご紹介をいただいていますけども、飯田さん現地に乗り込んでらっしゃると思うので、先日もいくつかご披露いただいたんですけども、さらにこんな会合だったという風なことがインプットいただけるんだったらいいんじゃないのかなという風に思います。

【飯田】 実は現地に行く予定だったんですが、直前にキャンセルしオンライン参加になっています。というのは、直前でオミクロンみたいなのが出ると帰国できないということになりそうだったので、オンラインに直前に切り替えたので、結構それはそれで苦労がありまして。というのは、1 個ホスト（するセッション）があったので、ちょっと心配したんですが、それは事務局が非常によくサポートしてくれて、つつがなくできています。全体で言うと、私共の方では 1 個主催でホストをしたのと、あと私自身は 2 つか 3 つ、ヨーロッパ系の欧州委員会とか欧州評議会とかに呼ばれてデータとか AI だったかな、話をしたんですけども、私の方がホストしたセッションもオープンフォーラムでほとんどみんなオンラインでした。ただ現地に一人だけハンガリーから、横澤先生から紹介していただいたストウさんが、前も参加していただいているんですけど、行っていただいている、後で聞いたら、現地の会議室は感染予防措置が取られていて、人と人の間の距離が随分確保されていたけれどもその分キャパが減った上で二十数名が入れるようなスペースがほぼ満員だったという風にえっと聞きました。あとオンラインで 30 何名だったので、約 60 人のセッションという形でできていたようで、セッション自体はデータの

ガバナンスというか、基本的に DFFT の話をしたんですけれども、それはイギリスや OECD や色々な所のスピーカーを招いて非常にスムーズに議論していただいて、理解を共有するという意味ではいい機会だったと思います。あと欧州系の 2 つのセッションはですね、やっぱりオープンなインターネットへのアクセスとかですね、あと人権みたいな話で議論をしまして、途上国の人たちにどうやってアクセスをミーンングフルに提供するかということとともに、自由でオープンなインターネット空間というのをどう維持していくかという課題を議論するような感じが以前より強くなっている感じを受けています。全てのセッションがもともとハイブリッドを前提に義務付けられていましたので、現地とオンラインの参加者というのがどの程度の比率になるかはともかくとして、いずれも可能にならなくてはいけないということだったので、そこは事務局側も非常によく準備をされていてつつがなくできたんですが、おそらく日本開催もハイブリッドが前提でオンライン参加者も相当いるだろうと。その一方で、是非現地に来てもらうにはどういう風にしたらいいのかということのをこれから考えていかなきゃいけないんだなという風にした次第です。あまり長くなってもあれなので、私からは以上にさせていただきます。

【前村】 飯田さんありがとうございます。その他に登壇なさった方っていうのがいらっしやらなかつたら、セッションに参加なさった方に。あ、横澤さん登壇なさったかもしれないですが。

【横澤】 今の飯田さんのセッションに参加しました。

【前村】 失礼しました

【横澤】 資料共有ができるんですかね。ちょっと飯田さんこれをお見せしてよろしいですか。

【飯田】 もちろんです。うちの門屋の力作です。

【横澤】 今飯田さんがご紹介なさった（セッション）というのが、このフライヤーがこういう感じで、私と飯田さん以外皆さん女性という、こういうしつらえですね。DFFT に関して私は（日本語の発表素案を投影しながら）いちいち読み上げませんが、こういうスピーチをさせていただきました。これは大成功で、飯田さんの仕切りが大変良かったと思うんですけれども、ちょっとだけあの別の話をしてよろしいですか。

【横澤】 大変重大な問題提起をちょっとしたいと思うんですけれども、先ほど名前が出てきた、ストティディベアが今度主催者側に回ってですね、国際商工会のセッションがまた別にあつたんです。二つぐらいあつたんですけど、そのうちの一つですね、これ私にとって初めての経験だったんですけど、Zoom bombing が起きましてですね、要するに変な名前の参加者がちょっと口にするのはばかられるような、そういう類の動画を画面にこういう形で画面ジャックして、これ最後の方の 5 分ぐらい断続的になんかそんなことをして、よくわかんないです。女性のストティディベアがずっと画面に映るような形でモデレーターをしてみましたので、そこで寄せ付けられてきたのかも分かんないですけど、多分 MAG で河内さんが最初の方の議題として間違いなく多分ですね、そういった、元々アジアってそういうことがやりやすい体勢ですよ。今の我々のこの会議ですと、ちゃんとしたレジストレーションのプロセス

があって、チェックシートで出てくる、甘くはない、そういうのもあると思うんですけども、まずセッションが多いというのと、あと参加者が多いというのと、その二つの効果で多分 2023 年の日本開催の時もそういうものの対策って結構大変なんじゃないのかな。それでわりとレジストレーションのプロセスというのを少し厳密にやる方はですね、そういうのは議論結びつくんじゃないのかなという風にちょっと思ってます。堀田さんに聞いたら堀田さんもそういうことを初めてだったという風に、堀田さんもいらっしゃったんですけどね。ただ他の会社のメキシコの MAG メンバーは結構あるよって言ってたんでしたっけ。河内さんと私の共通の知り合いがいるんですけども、ミュートになってるのかな？

【河内】 すみません聞こえますか？メキシコからの MAG メンバーの人にそういうのがあったって聞いたけど、他でも他のセッションでもあったのかって聞いたら、いくつかのセッションでやられたって言ってました。その後、システムに強い人が、システムをいじって何とかもうそういうことができないようにしたとあって言ってましたけど、よく分からないんですが、そう言ってました。はい。

【横澤】 すみませんあんまり引っ張っちゃいけないと思うんですけど、そういうことがあったということで、2023 年の留意点だと思います

【前村】 ありがとうございます。Zoom bombing は ICANN でもやられて、対策としてはウェビナーにしてテイクダウンできるようにしたってということなんですよね。なので今回もメイントラックはウェビナーでそれ以外のところはウェビナーじゃなかったんで、逆にびっくりしたりなんかしたんですけどね。私が見える範囲ではそういう感じでしたけどね。2 年の間に行ったりそういうことが対応しやすい、プラットフォーム側も常に進化をしてくれればいいなという風に思うところですけど。それ以外に登壇者の方、ひょっとしていらっしゃるかもしれないって、すみません不明を恥じますけれども、共有していただきたいですし、参加者の方々にこんなセッションに出ただけど面白かったよという風なことを共有していただくのも結構です。他にそういった感じの共有ありますでしょうか？あったらよろしく願います。立石さんいらっしゃるんですけど、立石さんなんかワークショップかなんか提案なさったりしませんでしたか？

【立石】 したかったですけど、間に合わなかったです。その辺の（セッション）を聞こうと思ったんですけど、ちょっと別の仕事に負けてしまいまして。所々聞いてはいたんですけど、あまり雰囲気が分かるほどまでには。今回すみませんあまり聞けてないです。

【前村】 その他に参加なさった方で印象に残るセッションを情報共有していただければと思います。いかがでしょうか。あるいはこのセッションを報告会で紹介したいみたいなことがあるといいですけどね。何かそういう風なことですね、何でしょうね、どなたもお声が上がらないようであれば、ちょっと先に。チャットにセッションのリンクを一つ送ったんですけど、私あまり聞き回って見聞を深めるような参加はできなかったんですけども、仕事に関係あるところに関して、例えばですね、ユニバーサルアクセプタンスっていうのが今相当流行ってしまっていて、ユニバーサルアクセプタンスっていうのは何かというと、新しいドメイン名とかで、今までドメイン名って言ったら.com とか.jp とかだったらドメイン名だと分かるんだけど、新しいのはどうもそんなドメイン名だったのっていう風な現象が起

こったりするのを、皆さんにドメイン名だと分かってもらっていかなきゃいけないよねみたいなのがユニバーサルアクセプタンスってやつなんですけども、すごく盛り上がっていて二個三個もセッションがあったのでそういうのを見てたりしたんですけども、もう一つが、今送ったリンクを見ていただくと、APNIC と LACNIC という地域インターネットレジストリ 2 つがですね、タウンホールエディティングというのをやりまして、これですね、インターネットテクニカルサクセスファクター、技術的な成功要因っていうのをやったんですね。APNIC と LACNIC の共同プロジェクトで今年の 1 月、もうちょっと前だったかもしれないですね、EoI というのか、提案募集が出てたんですね。それでスタディをコミッションして結局アナリシスメイソンっていうコンサル会社が引き受けてそれを実施して、それが出来上がったんですけど、それを紹介するっていうようなところでした。運営側、タウンホールの関係者っていうのは誰一人オンサイトにいなかったんですね。それでオンサイトにいなかったんですけども、何人かオンサイトで見てる人がいて、その場のセッションでは、オーガナイザーがリモートによるオーガナイザーって APNIC の人だったんですけど、だからあまり現場が見える状態じゃなかったという、まあちょこちょことしたトラブルがあったんですけども、そうは言っても割と円滑に進んだのかなと。部屋の中に 2 人か 3 人しかなくて、他は全部リモートでセッションが進んでいくっていうのは、何か新鮮な今年の雰囲気が出た感じだなという風に思います。それでこの中身自体はですね、ディスカッションをするというよりもこういうペーパーできたのでみんな見てね、意見あったら言ってという風な感じで。意見の中には質問だったり意見を出したりっていう風なことで、タウンホールミーティングっていうのはそんな感じで主催者の訴求したいことをセットして詰め合わせて出すということでもいいということで、そんな感じのことがありましたというのを紹介しておきたいと思います。

その他こんなセッションがありましたよ、こんなのに参加しましたよっていうのはありますか？皆さんいかがでしょう？ここですね、何人かの方に声を上げていただくと、報告会でそれではよろしくお願ひしますとこうやっていきやすいのですね、というか、ぜひともお願ひしたいと思います。お願ひします。どんなところに出ましたかという感じのことをお話ください。兼保さんが今アンミュートとされたように見えます

【兼保】 えっとここで話すような話ではなくてちょっとレベルの低い話で大変恐縮なんですけど、僕興味の範囲っていうかデジタルプラットフォームとかプライバシーとかそこら辺のセッションをいくつかリアルタイムに聞いていたんですけど、まず Zoom がさっきおっしゃったようにウェビナーなのか単なるズーム会議なのかっていうところが、主催者によってだいぶ違って、発言が許される場所は結構荒れてるところもあったなっていうのが一つ目の感想でした。あと会場も参加者が少ないように見えても、一個どのセッションだったか忘れましたが、壇上になんか変わった人が登って登りとか横断幕とかがあって広げ出して主張し出す、何て言うか、過激派まで言わないですけど、みたいな人たちが出てくるぐらいの、いい意味で言うと盛り上がったというか荒れたみたいなのがカメラのこっち側から見ていてそういうセッションもありましたね。プラットフォーム系の話で言うと、例えばそうですねフリーダムスピーチとかああいう系のやつは、いわゆる GAF A がどうちゃらこうちゃらとかコンテンツモデレーションどちらかっていういつものトークだし、プラットフォームが力を持ちすぎてみたいなの話で言うと、プライバシーを情報俺のものだから改正とかなんかそういう話をがーってやってたように思います。

【兼保】 　　ちょっと僕が印象に残ったのは、参加者の人種というか、使ってた言語なんですけど、今回はあんまり僕中国の人は見なかったんですけど、前回くらいもそうだったんですけどかなりロシアの人が増えたなっていう気がしてます。僕が入った三つ四つ、もうちょっとか、リアルタイムに入ったやつで発言が許される系のやつではロシアの方がかなり色んな所で発言をされていて、これ何語だろうと思ったらロシア語みたいなそういう感じなんですよね。ポーランドっていう地理的なところもあるのかもしれないんですけど、かなりロシアのインターネット事情が発信されたように感じました。以上です

【前村】 　　はいありがとうございます。その他ありますか？ロシアですか。何か新鮮というのか。

【兼保】 　　こんなところで話す話じゃないかもしれないけど、何年か前に APrIGF ってロシアでやったじゃないですか。

【前村】 　　ウラジオストクでやりましたよね

【兼保】 　　そう。ウラジオストクやった時も、インターネットでテイクダウンするのはなんでプラットフォームがやれるんだと。普通にそういう権力を持つのはボリスだろ、ロシアではそういう権力を持つて人たちがテイクダウンするんだけど何がおかしいんだ？って言われてぐぐぐってなったっていう、ロシアルールが今回もなんか炸裂してたなっていう感じ。

【前村】 　　ありがとうございます。その他ありますか。ゆるゆると報告会に向けてのところを考えていったほうがいいんじゃないのかなという風に実は思っていて、多分に報告者候補出しみたいところで、どんなセッションに出ましたかみたいなことを伺いながら、ではそれを報告してもらえませんかみたいなことを作っていかなきゃいけないんだろうなと思うんですよね。ということで報告会の中の IGF2021 の報告部分に関してはどんな感じでやりましょうかね、ということで、そうですね、自主的にご発言なさった方が結局そういう役を取っていくことになる、手が上がりにくくなるのかなとも思いながら、兼保さんのような形で所感を言っていただけの方には是非この部分には出ただけるといいかなと思ったりなんかするんですよ。そういうのも含めながらですね、カトヴィツェのセッションをご覧になった方々からの感想とか感じられたことっていうのを伺っていきたいなと思ったんですけど、他の皆さんいかがですか？困ってしまうのはですね、ここでいや実は何も聞いてないですよみたいなことになっちゃうと、報告会できるのかっていう方向に行っちゃうんです。なので是非ともこの部分の議論が活況で、どれを報告しようかなとか言って困るぐらいに出たんだったらいいなという風に思うんですけど。

【山崎】 　　ご参考までに今ご覧になってるところに書いてありますけども、日本からの登壇者は、先程お話しした飯田さんは一番上とでそれ以外にと 4 名ほどいらっしゃるかなと。ただいずれもこの場にはいらっしゃらないと分かんないんだからお願いしてみてもさすがに総務審議官の方にご登壇いただくわけにはいかないんですけども、あとのお三方に打診してみることは可能ですけど、ご登壇いただけ

る場所はないので、出来ればここにいる皆さんの中からもご相談いただいた方がいいのかなと思いました。

【前村】 山崎さんありがとうございます。一つはご登壇になった方にどんなセッションだったかっていうのを聞くというのは、二年後にはホストになるという意味で言うと重要なのかなって感じがしますね。セッション、ワークショップに応募してみようかっていう風な方向に議論を向けるためのいいポイントになるんじゃないのかなという風に思いますね。そのほかいかがでしょうか。はい、名指しして行こうとしています。大変恐縮なんですけど、浜田さんどんな感じのセッションをご覧になったかとかご披露いただけたりします？

【浜田】 このところなかなか時間が取れなくていくつか参加したんですが、後でじっくり復習しようと思って、あまりその場に集中できてないので、ちゃんと報告が今できません。すみません。

【前村】 分かりました。そんな感じでちょっと。

【浜田】 一箇所ですね、元々セッションごとに事前に登録するようになっていきますよね。これは多分他の皆さんもそうだったんだと思うんですが、事前に何十人か登録されていても、実際の会議の場に、その場にいたのはその中の数分の一という感じでしたね。あと1ヶ所ですね、主催者もスピーカーも誰一人来なくて参加者がずっと待っていたというのも一つありました。以上です。

【前村】 ありがとうございます。そういうのもあり得るんですよ。案外。昔のIGFってそういうのがあったような気がしますね。それはオンサイトなんですよ。横澤さんの手が挙がっています。

【横澤】 ちょっと質問はですね、これ日本人が関わったものに限定という趣旨なんですか？

【前村】 いや、違います。

【横澤】 私はもう自分が出させていただいた、さっきの飯田さんのセッション以外に、聴衆として2つICCで。結構他で出てくるじゃないですか。ICCBASISが多分レポートを多分一週間のうちに出すでしょうっていうのが作ってあるいはジュネーブのDiploとか、結構私なんかよく見てるんですけど、そういったところでアジア復興だったよっていうそういうのもあの二次情報とかでもいいんですかね？

【前村】 いいと思いますけどね。それ皆さんのお考えももちろん伺いたいんですけども、はいいいと思いますよ

【横澤】 それだと少し幅が広がるでしょう。実際に出てなくてもなんかこうだったみたいだよと。

【前村】 そういう感覚で言うとそのなんでしょうね。マルチステークホルダーリズムに忠実に行くというのか各ステークホルダーの皆さんに並んで頂いてワイワイやるっていう感じがいいのかな

という気がしますね。そうすると紹介できるものもばらける感じになるのかなと。

【横澤】もし出し物が少ないようでしたら、そんなアイデアがあるかと。

【前村】 ぜひとも横澤さんよろしくお願ひします。

【横澤】 ちょっと調べてみます。あまり長くしゃべれないですけどね。

【前村】 分かりました。そういう風な形で、今ですね、IGF 報告の部分で、どういう風な会合だったかっていうのを報告するっていうのは重要で、おそらくステークホルダーごとに欠けないようにいろんな方にも入っていただくっていうのは重要だと思うんですが、そんな感じでそうですね、5つのセグメントからどなたが出るみたいな話にしていいですかね？それはないんじゃないかっていうのがあるんだったら今止めていただきたいと思うんですけど。よいようであれば、ビジネスセクターからということだと、ここはもう横澤さんをお願いしますということでもよろしいですか？

【横澤】 努力はいたしますね

【前村】 皆さんなかなか思う存分に歌って感じじゃないと思うんですよ。日本にいてちょこちょこ見てっていう感じで僕自身もそんなに3セッションぐらいしか見られてないっていうところもあるので、少し下調べしてこんなだったらしいよ、っていうふうなことを調べていただかなくちゃいけないんですけどもそれはちょっとすいませんよろしくお願ひしますって感じですかね？政府に関してはこれ飯田さんにお願ひするということでもよろしいですかね？

【飯田】 はい、そうですね。あと実はですね、さっきあそこになかったんですけど佐々木という総務審議官ではなくて多国間経済室長という者が OECD のセッションに出たりしましたので、そういうものも含めて準備はしておきたいと思いますので結構です。

【前村】 ありがとうございます。シビルソサエティという感じの方が、さっき香月さんがいらっしやったような気がするけど今はいないですね。浜田さんってお願ひすると大変ですかね？

【浜田】 僕がですね。実は2月までなかなか時間が取りにくい状況になってるんですね。香月さんにもしお願ひできるだったら是非お願ひしたいです。

【前村】 そうですね、本来は今日中に案内が刷れるぐらいの感じのどこまで極めたかったんですけど、ちょっとばっかし時間を取って、今月中っていうのが今週中ぐらいでやれるような感じで、香月さんとかちょっと聞いてみたほうが良いような気がしますね。

【前村】 後は政府、プライベートセクター、シビルソサエティ、テクニカルコミュニティなんですけど、テクニカルコミュニティって私それですし、あと堀田さんいらっしやいますけど、堀田さん

にお願いできますかとかって言ってみよう。堀田さんいかがですか？

【堀田】 どうしましょう。しゃべるために調べるっていう感じになってしまいそうです。

【前村】 なんかねそういうか可能性がちょっとだけあります。そういった意味では、私が頑張るっていうのでもいいのかもしれないですけど他にテクニカルコミュニティと名乗れる感じの人はこの辺にいるか、山崎さんって人もいますけどね

【山崎】 じゃあ私がすることにしておいてもいいですけどまあ堀田さんの方がより適切じゃないかと思えますけど。相談しながら、分担とか堀田さんがお忙しいようだったら私がやるとかそんな感じで行きましょうか。

【前村】 ちなみに堀田さんはセッションどれ位ご覧になったんですか？

【堀田】 ほとんど出てないですね。横澤さんと同じ ICC のセッションの後半ぐらいですね。

【前村】 なるほど分かりました今4つ、プライベートセクター、政府、テクニカルコミュニティ、シビルソサエティの4つで5つ目ってアカデミアっていうんですかね？4つあればいいですかね？いずれにしても、報告セッションはステークホルダーから一人ずつみたいな感じで基本的には作って、そういう人たちに紹介してもらおうという感じでいいでしょうかね。登壇なさった方、小宮山さんとかひよっとして喋ってくれるかもしれないなと思えますけど。とりあえず報告セッションのところはそんな感じで作ってみようかと思えます。そうすると講演者調整中という風な言いつぶりになるかもしれないけどそういう風なことをやりますよっていう風な紹介はできるんじゃないかということになります。ということですね。それから次のところはテーマセッションですけど、ちょっと下に行ってもらえますか。セッションに関してはどんな感じですかね？ちょっと山崎さんをお願いしてみようかな？このテーマ出しはこんな感じです。

【山崎】 これは私個人の意見ではなくて、前回会合で出たものを書いただけですので、皆さん追加していただくことを期待してたんですが、まだ追加はされてないみたいですね。だからかなり偏ってる可能性はあるんですけど、一つ目は岸上さんだったと思えますけど、W3C に関わっていらっしゃる標準化に関連してサステナビリティ、ブロックチェーンの Proof of Work (PoW) でエネルギーって言うか電力消費する問題、トラスト、かなり多岐にわたる内容ではあるんですが、これは幅広い範囲をカバーできる可能性はあるかなと思います。もう一つは、先程飯田さん、横澤さんから出ましたけど、日本政府主催のオープンフォーラムの成果を取り上げてはっていうことで、先程は IGF の会合の報告っていう切り口でしたけど、今度はテーマセッションとしてこのグローバルなデータガバナンスに関してっていう内容でやったらどうかっていう、意見があったということです。その2つしか書いてないので、他に多分重要な観点が抜け落ちてると思えますので、皆さんから補足いただけることを期待したいなと思います。

【前村】 皆さんいかがでしょうか。流れとしては、事前会合の時に4テーマ4セッションやりましたよね。流れとしてそういうことをやったという日本のIGF活動として次にこれをこういうテーマで話してみたよっていうことではある訳ですね。どうですかね？今は出してくれていますね。思い出しましょう。スプリンターネットをやった、脆弱性情報のセッションをやった。エンド・ツー・エンド暗号化と場自体の話をやった、中立性と海賊版サイトという風な感じの並びですね。これは私自身がこんなんでいいのかもしれないなと思ってるのは、元の資料に戻ってもらえますか、このいくつかネタ出しっていうのをしてるんですけど日本政府のオープンフォーラムのテーマを取り上げることができないかというのが実はその DFPT とかえっとデータガバナンスとかっていう風なあたりのことを日本政府は打ち出してる感じなんですけど IGF 活動の中できちんと取り上げてはないなという風な気がするので、2023 年も主要テーマとなるに違いないものなんだから、これはこれをテーマに据えてやるっていうのはいいんじゃないのかなっていう気がしました。

【山崎】 どうでしょう

【前村】 だからどういう風に料理するかっていうのが私の頭の中にはないんですけど、皆さんどう思われますか？お願いします。

【堀田】 いいんじゃないでしょうかって乗っただけみたいなんですけどやっぱり DFPT っていうか政府とかま経済界も過ごしてますけどなんなんだろうね、トラストって何なんだろうねっていうのは、各ステークホルダーが自分の言葉で考えて喋ってみるっていうのを一回もやってない気がしますよね。立石さんのセッションでやったけど、あれも何か海賊版っぽい話になってしまっているの、そもそもなんなんだろうねとらして、で結果的にあの横澤さんがおっしゃった ICC のセッションで Zoom bombing なんかも参加者の認証が足りてないから誰か分かんないやつが入ってきてるところに通じる訳で、一回話した方がいいように思いますね。

【前村】 ありがとうございます。私がぼやっと考えていたことを明確にきちんと言っていたいたような思いがあります。結論は焦っちゃいけないですね。他の皆さんいかがですかねと問いかけて置いているだけだと物は進まないの、十分にいいアイデアのような気がしているのでこれでちょっと考えてみますかね。それで飯田さんに何度もすみませんなんですけど、そういう風な感じでこのグローバルデータガバナンスであたりっていうところを取り上げるとすると、総務省さんに何か考え、こういう風に料理したいなとかっていうのはあるんですかね？

【飯田】 そうですね、取り上げていただくことは非常にありがたいことですね、我々もトラストとか DFPT がインターネットガバナンスの全てではないと当然思っていますが、重要な要素であることも間違いなく思っていますので、その一つの側面に焦点を当てて議論いただくという理解であれば非常に有益なお話だと思ってます。料理という意味ではですね、ここは人によっていろんな意見が出ちゃうと思うんですけども、私自身は DFPT っていうのは結論がある世界ではないと思っていますので、精神論に近くて、運動論であってどうやってトラストを高めていかに自由なそのインターネット空間を維持発展させていくのかというその理念であって、これをどういう風に実際に実践していくかを国

とかステークホルダーごとに考えていかなきゃいけない話だと思ってますので、日本のコミュニティとして今その考え方に基づいて、例えば当面の国内でもいいですしグローバルでもいいですけど、課題やそれに対する対処をどう捉えているかということを出していただいて、それが二年後に向けてそれをグローバルに提示していくかということ、日本としてのその何て言うんでしょう、計画とか作戦とかですね、進め方の一つのアイデアとして議論いただいて、二年後に向けた何らかの取り組みについての合意ができれば、それが非常に有益だという風に感じます。一つのやり方だとは思いますが、あと基本的に例えば DFFT はですね、国でやってることだと包括的データ戦略の基本理念になってますし、あと国際的には今年 G7 でやったロードマップというのが、これはパブリックに出てると思いますけども、具体的に何をやっていくかという政策提言として出ています。具体的な要素としては、プライバシーに関する規制制度の調和を取るとか、ローカリゼーションをいかに減らしていくかを考えると、あとデータの共有の仕組み、実際に各国でやってるプラクティスを共有していっていかにそのデータがうまく使えるようなやり方を工夫していくとか、そういうことが要素になってますので、そういうものを見ながら日本としての課題ややり方を考えていただくというのものもあるかなと思います。

【前村】 ありがとうございます。そんな感じでお考えが呈されましたけど、他の皆さんからなんかコメントなど。横澤さんの手が上がりました

【横澤】 すみません、でしゃばってしまって申し訳ないですけど、飯田さんのセッションで私もいくつかの考えをお話ししたんですけど、河内さんと私の今の勤務先でやろうとしているのは、DFFT の見える化みたいな話を、いろいろアンケートとか、今年は ASEAN 地域でやったりしたんですけど、そんなような一つの取り組み方としては、エビデンスをどうやって持ってくるかっていう話なんだろうと思いますよね。2023 年に向けてということであれば、この会でもですね、そのようなエビデンスづくりを、DFFT をより深く考えると、先程のロードマップもありますけれども、それに従って我々ができることは何かっていうのを考えてみる良い機会にできるといいかなという風に思っています。例えばビジネスにとって DFFT はどういう意味があるのかっていうと、信頼があることによって、ビジネスのプロセスの一部分を省略できるんですね。逆にトラストがないといちいち同意を取ったりしなくちゃいけないとかですね、相手の信用度クレジットがどれぐらいあるかっていうのを毎回、信用の置けない相手に関しては何も毎日調べなくちゃいけないとか、そういう手間とリスクとコストがかかるというのが、トラストっていうのは、ある意味そういったものを円滑化してコストを下げリスクを下げるという、そういう働きがあるっていうのは、一つはそれだけじゃないですけど、分かりやすい説明で、ではシビルにとってどういう意味があるのか、リサーチ技術とコミュニティの中でトラストってどういう意味があるのか、例えば COVID-19 に対するワクチンとかの創薬の場で個人情報を使いたいんだけどっていう場面を考えた場合に、トラストってどういう影響が出てくるんだろうかと。なかなか今までそういった議論してなかったと思って、そういういいきっかけになるのがこの話はいんじゃないのかなという風に思います。すみません、この文章ちょっと私いただいているのかもしれないけど、後ろの方にビジネスセッションとかいうこの少し下のところにこうこれがどうまだこれ、要するに住み分けがどうなのかなと思って今の

【前村】 このビジネスというのはですね、どちらかというとサブというよりロジという意味合

いです。

【横澤】 忘れてください。

【前村】 ありがとうございます。とても明確だなと思いました。それで私、言おうとしていたのは、トラストとても重要ですが、例えばですね、今横澤さんがおっしゃった通りで、どうやって信用すればいいのかっていうことなんですよ。それで、今日昼休みに何やってるかというのと、ワクチン接種証明書アプリっていうのが今でてるんですね、最近出たんですけど、アプリで何が起るかというのと、私杉並区民なんですけど、杉並区長がちゃんとサインをした接種証明書っていうのを貰えるんです。これを見たらちゃんとワクチン接種したんだなっていうことが即座に分かるっていうという仕立てになってる訳ですよ。こういうのがあると、とても色んなところで便利になるようになっていう風な話で、こういう意味合いの重要さっていうのがあるんだなっていう風に思ってたんですけど、今までの話で出てこなかった中には、実はそのトラストっていう部分の技術的な研究っていうのはまだまだ途上でありながら、盛んにやられてるんで、ちゃんと、ちゃんとという言葉はあんまりよくないんだけど、技術でどうやってトラストを IT システムの上で実現するかという角度からやってる技術者の方々っていうのはいますんで、そういう風な結構ガリガリ技術屋みたいな人に出ていただくのがどうしても必要なんじゃないのかなと思いましたということで、なんとなくテクニカルコミュニティ的な立場の発言をしているなど気づかされるんですけども、そういう風な人がいるといいかなと思いました。そうすると、シビルソサイティだったり消費者だったりみたいなアングルからだとか、DFFT やトラストガバナンスをっていうのはどんなアプローチになるんですかね。ここはやっぱり浜田さんに聞くんだらうな。いかがでしょうか。

【浜田】 そういうとおそらくそうで、消費者系の僕もそんなに特に知ってるわけではないんですが、そのあたりからだとかトラストっていうところから議論に参加していただくって言葉なんかできるような気がしてきました。

【前村】 そうですね。多分それで今こうやって話しているとマルチステークホルダーな仕立てになっていってるからいい感じだなという風に思っているんですね。

【浜田】 色んな人が関わりやすいテーマのような気がします。

【前村】 横澤さんが何かありそうです。

【横澤】 飯田さんの OECD では、最近電子商取引ですね。それでこのコンシューマーポリシーの方と、飯田さんのデジタル経済と結構セッションを持っていて、コンシューマーのトラストっていうと、どうやって我々ビジネスが消費者の方に信用していただけるかというような問題があるわけですよ。信頼を裏切るような行為としてダークコマーシャルパターンとかいうような言葉ですね、結構色んなことを話していて、結局裏腹って言いますか、コインの裏表の議論がそういう消費者っていうところを大きくとる場とするんですね、e コマースっていうのが一つのコインの裏表をハイライトする場なのかなっていうように思いますね。例えばヤフーさんとか出てきてくれないかな？っていうふうに思う

わけですけど。

【前村】 はいありがとうございます。他にありますか？他の皆さん。今意見を言いたいっていう方がいらっしゃるかもしれないと思ってちょっと思いとどまってみましたが、もしいらっしゃらないようだったら、不躰なお願いかもしれないですけども、データガバナンスで総務省さんが牽引なさっている国家的な政策という風なことなので、ここのコーディネーションを総務省さんをお願いできないか、コーディネーターっていうのがワークショップの主催という感じの位置付けでやっていただけないかなと思ってんですけど、今出たようなアイデアもありますし、誰かこういう人呼んでください、みたいなことがあればここで手分けしてやればいいんじゃないのかなと思いますけれども、飯田さんそれをお願いしちゃっていいですかね。

【飯田】 ごめんなさい。今、聞き洩らしました。

【前村】 データガバナンスとか DFFT って国の外に打ち出してる政策じゃないですか。なのでここはセッションのコーディネーションのイニシアチブを総務省さんにとっていただくっていうのがいいんじゃないのかなと。ここにいる皆さんは絶対お手伝いはするんだと思うんですけどもということをお申しました。

【飯田】 はい特に内容的なところとかですね。そうですね、そういう意味では一度そういう機会をマルチステークホルダーでもって議論しておくというのはいい機会だと思いますので、勿論できる限りでやらせていただきます。

【前村】 ではそういう形で進めてまいりたいと思います。他にこのテーマセッションに関してありますか？いいですか？それでは、次のところに行きましょうか。それでビジネスセッションの部分なんですけど、ここはどうしようかなっていうことなんですけど、私が何か言う前にもひょっとしてお考えがある方がいらっしゃったらお聞かせいただくと助かるかもしれませんいかがでしょうか。先週振り出したあの組織化の議論の線上にこのビジネスセッションっていうのがあるんだと思うんで、まずそっちを話さないとかキリがつかないということかもしれないですよ。もう一つはテーマが打ち出し最初にこう案内をするっていう意味で言うと、一番重要なのは3番のテーマセッションで何を喋るかっていうことでの報告をやるんだから、IGFの報告部分っていうのは大体想像の通りだろうし、ビジネスセッションはこういうふうな場で IGF どうしていかみたいなのを喋っている人には聞くけど他の人たちに訴求はあんまりしないということだと思うのでとりあえずはここは TBD っていう感じで貼り出してもいいのかなという風に思っています。あとは閉会のご挨拶なんですけど、閉会のあいさつをどなたにお願いするのがいいのかとかっていうアイデアある方いらっしゃいますか？それもすぐに決めなきゃいけないことではないと思うので、もうちょっと思案するっていうことかなという風に思いました。あとは期日の調整は山崎さん、今どれくらいのことになってたんでしたっけね？

【山崎】 まだ日程調整まで行ってないですけど大体どの辺を皆さんご希望かっていうのを伺ってみましたけど、ご覧の通り結構バラけてまして、一番多いのはこのオレンジとこの薄い方の青です

かね。1月31日の週が一番多いかなってところですが、ぎりぎり半分行くかどうかって感じですね。なのでこの辺りが現実的じゃないかという感じがしています。曜日を伺ったんですが、これは複数選択にしたほうがよかったんじゃないかっていう意見がありましたけど、結構ばらけています。

【前村】 きれいにばらけてますよ。

【山崎】 聞き方がいろいろややこしかったかもしれないですね。曜日の希望はない、1月31日の週だったらいつでも、金曜日は除く平日で火木がありがたい、月金以外の平日とか合わせると火木もしくは火水木のどれかっていう感じになりましたね。やっぱり月曜日と金曜日はだいたい前の会合で思っていましたけど、月曜と金曜日は避けた方がいいでしょうから、そうすると今回31日の週で火水木辺りでもう一度今度は調整さんを立てて聞いてみるのが現実的かなという気がしています。開催時間帯は朝がいいとか夕方がいいとかいろいろあると思いますけれども、アンケートでは16時からが一番多いですね。それから事前会合の時と同じ時間帯をご希望される方が一番多いと。他の皆様のご都合ともありますけど。ですから16時からということで火水木で行くかというのを聞いてみたいと思います。個別のご意見が書いた通りですが木金がいいという方もいらっしゃると思います。ですから、火水木、31日の週で夕方4時から日程調整してよろしいですか、ということをお伺いしたいです。

【前村】 皆さんいかがでしょうか

【河内】 いいと思います。

【前村】 ありがとうございます。お気づきの点があれば伺っていいえとここで声が上がらないのはいいんじゃないのかなって感じに思っていたらいいじゃないのかなと思いますんで、こんな感じで今山崎が申したような感じで日付を決めていくっていう風なプロセスを今週進めるということですね。それであとは報告会全体の構成に関してはこんな感じでどうですかという風なことで考えを伺って、大体のイメージができてんじゃないのかと思いますので、少し書き起こして具体的にすなりして、これも今週中で固めていくみたいなことをやらせていただきたいと思いますので、メーリングリストの方、どうぞよろしくウォッチしていただいて意見をいただければという風に思います。ありがとうございます。それでは報告会のところはそれくらいかなという風に思います。次ですが、あと30分ぐらいしか時間がないわけなんですけども、本格体制をどうするかということで組織化の議論っていうのをちょっとやりましたが、その辺に関して少しお考えを伺っていききたいのかな、議論していききたいなと思っていますが、そもそもだんなみたいなお気づきのところはありますか？基本的に今はもう完全に手弁当でやってる訳ですね。最低限のメーリングリストやウェブはJapan IGFのためにということでJPNICがホスティングしてる場所を使わせていただいているということで、メーリングリストであとは皆さんボランティアというのか皆さんの時間をお借りをするというのか、各自持ち寄ってやっていくということなんですけども、もう少し推進体制を立てるためには組織化するんじゃないのかと。それで組織化するためには関連する団体や企業であってもいいはずなんですけども、参集して会費という形で出し合って年間予算を拠出するみたいな体制に持ち込むというのが常套手段だなという風に思っています。その具体例の一つとして15年前にやっていたインターネットガバナンスタスクフォースとい

うものがあるって、これは堀田さんがお書きになった過去の活動の振り返りというところにも大体の概要が出てきますし、私もおりましたし、立石さんも JAIPA としてメンバーでいらっしやったということで、そこら辺は見当がつきやすいと思います。

【前村】 IGFみたいなものを作りますというだけでも同床異夢というのかイメージが分かりにくいのかもしれないですし、どういう風な感じで次のステップを考えていけばいいのかということで、例えば不安があるって言うんだったら、その不安は表明していただいた方が、いやいやそうじゃないんですよ、とかその不安は考えなきゃいけないですねとかって議論が始まりますので、今までのメーリングリストで出てきた、あるいはご意見をもとにお気付きの点があれば今出していただくっていう感じで少し議論を進めるというのが今日できることなんじゃないのかなと思います。いかがでしょうか。私のキックオフに言葉を使いすぎてますね。すみません。立石さん、IETF みたいなってアイデアが出てきたんですけど、大体イメージは出来ます？それともそうじゃない方がいいんじゃないかかって思いになりますか？

【前村】 ひょっとして中の人がないかもしれないとかってそういうことなのかな？この辺を検討しないと話が先に進められないなみたいな所って皆さんお感じになってるんじゃないのかなとかって思ったりするんですけど、そういうのありませんかね、皆さん。横澤さんいかがでしょうか？

【横澤】 質問だけなんですけれども、私この議論はしばらく入ってなくてすみませんでしたということで、その前提なんですけれどもまず NRI を作る、それにするっていう議論なんですよね。

【前村】 そうですね。そこら辺の整理をしようかと思うんですけど、National Regional IGF Initiative として国内には Japan IGF っていうのが一応あるんですよ。Japan IGF の関係者っていうのはコーディネーターグループっていうのがあって、そこにいる人達はもう少しエンゲージメントっていうのか、色んな人達を巻き込んでやっていかなきゃいけないという風を感じていて、したがって、こういう活発化チームみたいな、少し輪を広げた検討になっているということですね。ましていわんや IGF2023 が日本に象徴されたなということで IGF のホスト国にという名に恥じないようなというのがですね、位の盛り上がりを持っていかなきゃいけないという風な課題意識があるので、その上で今の手弁当の状態だと何もできないだろうし、これから 2023 の実行委員会みたいなものを作っていく上で政府とパートナーを組む民間のボディとしてはそれくらいのもを作っていかなきゃいけないだろうなと思っている、そこに向かってどうやってやっていくかっていうのが今できるんだと思っています。

【横澤】 何度か5年ぐらい前も同じような質問したかもしれなくて申し訳ないんですけど、そうすると総務省さんをはじめとする政府側に対して民間側という大くくりなボディを作って政府と足し合わせるとすれば、Japan IGF となりますか？

【前村】 その辺はですね、人それぞれで、なんかイメージがあるじゃないですか。

【横澤】 分かりました。むしろあやふやで決め切らずにやると。

【前村】 はい。いくつかのパターンがあってですね、これにそんなに似てるか、似てないかっていうのはあるんですけど、IPv4 枯渇対応タスクフォースっていうのがあったんですけどね。今はちょっと名前を変えたりなんかしてるんですけど、それに関しては総務省さんも一メンバーとしてご参画なさったりなんかするんですね、どういう風な立て付けがいいのかっていうのは色々あるのかなという気もしています。だからその辺もここで議論するには適したというのか、議論すべきことだろうなと思うんですけどね。

【横澤】 すいません、さんざっぱら前回話の中で議論されているかもしれません。

【前村】 前回の会合からすぐに議論をキックオフしとけばよかったのですが、ちょっと手が回らなくて今頃最後になってちょっとだけ、今日言い出さなかつただけマシっていうぐらいのことでしかできてませんので、しょうがないというのか横澤さんのような状態が普通なんじゃないかと思います。

【横澤】 すみません、浦島太郎で。そうすると、どれだけ多くの人を巻き込めるかって言うことなんですよね。

【前村】 そうなんですよね。そういう意味で言うと、私自身がこれに関してどう思ったかというのがいくつかあってですね、一つは小畑さんがメーリングリストでおっしゃってたみたいに、設立発起人を募って設立発起人が設立会則みたいなものを作って立ち上げるみたいなプロセスをよく取るんだと思うんですけど。その設立発起人がお金はたぶん出すだろうと。普通にそうなりますよね。そうすると今まではこの活発化チームの中が、ここが1人称で仕事をしていたのが、1人称がちょっと別のところに行くっていう風な感覚があるのかもしれないと思うんですよね。つまりは設立発起人が自分になってやり始めるってことなので、活発化チームの中の今までやってきてるメンバーと設立発起人みたいな人達をどういう関係で捉えればいいのか、とかいうことが少し気になるのかなというのと、ある程度は色んな所にお声をかけると乗ってきていただける方々いらっしゃるでしょうが、それがどれくらいかなという見積もりをしていかなきゃいけないのかなということと、それっていうのは図らずも年間予算どれくらいの活動をするんですかっていうことにもなりますので、そうするとではそれって幾ら位、どれ位のスケールの活動をするんですかっていうのが決まらないと、どれくらいファンディングすればいいかっていうのも決まらないでしょうし、これは鶏玉なんだと思うんですよ。どっちも重要で、どっちかが決まると他方に波及するみたいな、そこは何をやるかっていう意志がどの辺りにあるのかっていうことにもよるのか。そんなことをつらつらと考えておりました。

【横澤】 そんなこと言うと、目安としてそのコストのスケールなんですけれども、少なくとも1人の方がこれ専従で生活もして、かつ合理的な出費も賄えるぐらいの金額って言うと大体まあ1千万からと。それが一つの目安。

【前村】 ですよ。そうですね、IGTF の例を言いますと大体年間予算1千万ぐらいで出して、それで専従の事務局長ということで会津泉さんだったんですけど、その時には。会津泉さんが名乗りを

上げてくださって雇ったというのか、プロジェクトを回していただいたと。それにウェブの管理みたいなことを、その時に委託をしてと。だから専従の事務局長プラスウェブのホスティングで1千万ぐらいが消えるとそういう風な感じでしたね。だから1千万だと専従で人がひとり来るんだよなという風な感じの感覚を一応私は持ってますね。プラス事務局をもう少しニュートラルのところに持っていかなきゃね、みたいなことを言い始めると、小畑さんのおっしゃっているようなスケールのお金がかかっていくという感じなんですね。そこに関しては小畑さんのメールの中では、オフィスを構えて1人雇ってっという感じだという風におっしゃってたんですけど、それはきょうび事務局代行みたいなことで済ませれば、もう少しコストはいい感じのところに落ち着くのかなと思ってますけど、それには限界もあるでしょうしねというようなところのトレードオフかなと。というようなことをいろいろと喋っていったら、いろいろと気になることが出てきたりするんじゃないですかね。多分堀田さんですか？

【堀田】 1千万っていうのは作業としてはいいんですけど、例えばIGFを日本でプロモートする責任を発注先に置くんだとすれば、1千万では無理です。要は責任範囲をどこに置くかによって随分違うんですけど、少なくともボランティアが集まって今やっている状況で、今日みたいな会をやる、プロモートできるわけではないと思うので、プロモート策を作る、プロモートを自分でやるぐらいの人みたいなのを雇うと、それはかなり、金がかかるなっていう気がしますけどね。

【堀田】 それを中立なところに作るって、理念的にはその通りでしょうけど、中立的なところを作る、イコールそんなに外に対する手足の実績がないところに頼むってことになるので、そういうプロモート元の責任をそこに渡すというかお願いするのは難しい。中立であるってことは、形式的にはよく分かるんですけど、本当にそれがいいのかどうか、実体のことを考える時にJPNICさんをお願いした方が、それがいいだろうって思っちゃうんですよね。JPNICさんとかJAIPAさんとかIGFに対して経験持ってるどころ。以上です。

【前村】 ありがとうございます。そのほか皆さんいかがでしょうか。お考え気になることとかっていうのをここで言うっていただけるとそれで議論がドライブされていくだろうと思うんですよね。飯田さんお願いします。

【飯田】 ありがとうございます。今の議論をお聞きして私どもも少ない経験の中で色々な課題があって、色々な選択肢を検討しながら進めていただこうと思ってはいますが、前にもお話ししているので誤解はないと思うんですが、2023のIGFを開催したりプロモートする全体の役目としては当然政府側が国連との約束の中で負っていて、予算もって会場も準備してアジェンダやいろんなものも皆さんと協力しながらやっていくその体制も、なかなか進まないで申し訳ないですが、作っていくということになると思ってます。先程のIGF-Japanができた時に政府の立場はどうなのかというのについては、私は個人的にはIGF-Japanには政府なり総務省もコミュニティの一ステークホルダーの代表として入れて頂くのかなと思ってます。参加する中で、

【前村】 飯田さん、ちょっとここは明確化しとかなないといけないと思うんですけど、IGF-JapanとJapan IGFと二つあってですね。

【飯田】 名前がすいませんけど、これから作られようとするものであって。今、作ろうとしている NRI の中には、政府も一ステークホルダーとして参加させていただくんだと思ってます。その NRI が日本のインターネットコミュニティなり、IGF コミュニティを代表する組織として 2023 を招聘する大きな枠組みの中で中心的な役割を果たしていただくということが今のイメージでして、そのための予算と、NRI の活動の予算とは全然別次元だと思ってますので、ここは言い方は悪いですけど、できる範囲でやっていただくということで、まさに前も議論があった通り、2023 年のためにやるわけではないということもありますので、それを一つのステップにしてどんどん大きくなっていっていただく、そのプロセスとして取り組んでいただければいいのかなと思っています。もちろんあまり出過ぎない形では思いますけども、可能な範囲でサポートもさせていただきたいと思ってますし、先程の既存の団体に置くかどうかということについても、我々は全く中立な立場でおりますので、皆さん合意が取れる形で決めていけばいいと思ってます。ちょっと言葉が適当で申し訳ないんですけども、そういうことでとマルチステークホルダーとしての努力がだんだんと大きくなっていくということに対して私どもが少しでも貢献できればと思っています。

【前村】 なるほど、ありがとうございます。飯田さん、質問があるんですけど、これから組織化するために設立発起人を募って、何か団体、多分は法人を作るとするじゃないですか。その時に政府もマルチステークホルダーの一員として例えば設立発起人になったり、あるいは、設立発起人はちょっとミスリーディングかもしれないですね、一会員として年間の会費を支払うなんていうことは考えられる、考えて無理がないでしょうか？

【飯田】 意欲はあるんですが、定期的に可能なのかとか、ちょっと省内で確認してみないとですね。

【前村】 あんまり聞いたことがないなっていうのもあるんですね。

【飯田】 恒常的に会費払ってるようなものがあるのかについては、あまり聞いたことがないと思います。昔は賛同して何か共催です、協賛金を出すというのはあったように思いますけど、今非常にそれも少なくなっているように思いますので、ちょっとそこは色々検討させていただければと思います。

【前村】 ありがとうございます。というのは、IPv4 枯渇タスクフォースというのは、本当に珍しいなと思ったんですけど、政府が一メンバーとしてお入りになっていて、ただこちらは会費取るようなところじゃないので、何もお支払いいただかなくてもメンバーだという風に言っていたはずで、ちょこちょこした出費は v6 協議会であったり、どっかが見てたりしたみたいだったので。という訳で、ご確認いただけると大変助かります。その他に気になることがありますでしょうかね？

【前村】 本日何か決めるってことでもないでしょうし、メーリングリストのスレッド上にいらっした方も今日ご出席でなかったりするんで、恐らくメーリングリストで継続的にやっていくって

いう風な議論をするだろうという風に思っています。しばらくそんな感じだと思います。

【前村】 なのでこの場ではお気づきになったことを言っていただくと、皆さんの議論がちょっとスピンがかかっていいんじゃないかなという風な感じで、ご意見があれば伺いたいと思っています。

それでは今日のところはこれくらいでということですよ。オンラインで議論していきましょう。これなかなか難しいなと思いますんで、皆さん議論への参加、色々なアイデアを出していただくとかどうぞよろしくをお願いします。

それでは8番のアジェンダのお話が終わったと思っています。今日の議論を受けた todo ということなんですけど、まず一つは2021 報告会に向けてということで、こちら今日の議論を受けてとりあえずどういう風な、最終的には案内文になるような形で決まっていなくてか TBD とか書いていくというものを一旦作ってみましょうかねっていうのを、安易にやるんだったら家で作ってみますね。JPNIC で、もっと言うと山崎と前村で作ってみますっていうことなんですけど、ここをお引き受けいただけたらすると我々は助かったりなんかするんですけど、そういう方いらっしゃいますか？

【堀田】 今回1月末か2月頭の報告会に向けては、サブチーム体制を作らずにやるっていうことですね。

【前村】 そういう風な進め方をしていましたね。いつのまにか。

【堀田】 最終的にそれで多分いいと思うんですけど、だとするとボランティア山崎前村がすごく仕事をしてなきゃいけない状態になんないですかね？

【前村】 そうですね、せめてセッションごとに担当決めるぐらいのことやった方がいいですかね？

【堀田】 例えばそうですね。じゃないとお二人に申し訳ないから、あと本当大丈夫かなと。

【前村】 むしろ心配していただいていると思います。先程テーマセッションのところは総務省さんをお願いしようということにさせて頂いてますので、あとはビジネスセッションと報告セッションの二つの担当者がぱちっと決まればいいですかね？報告セッションのところ、コーディネーターをお引き受けいただける方、どなたかいらっしゃいますかね？

【前村】 ここが案外難しいんじゃないのかなと思って。別の言い方をすると、ビジネスセッションを。私が担当するとかでいいですか？そうすると報告セッションをどなたかに明示的にお願いをして、ビジネスセッションは頑張ろうかなと。ビジネスセッションを私が担当することがあんまり綺麗な絵じゃないと思う方もいるのかもしれないなと思ったんですよ。ですね。

【前村】 報告セッションなんですけど、どなたからも手が上がらないと、いかがですかって
いうふうにちょっと声を掛けて行かなきゃいけなくなっちゃうんですけど、立石さんの手が見えます。

【立石】 実は音が途切れ途切れで、ちゃんと聞こえていなくて申し訳ないですけど、たぶん私
が一番遠いんだろうと思うんですけど、お手伝いできることがあればと思ってるんですけど。ちょっと
すみません、切れ切れなんで私が手伝えるかどうかわからないですね。

【前村】 報告セッションのコーディネーターをお願いできないかっていうことを今言ってま
した。

【立石】 報告セッションのコーディネーター

【前村】 はい。報告セッションを作る人です。

【立石】 報告セッションって言うから、この報告会に向けて、さっきのあれですよ。

【前村】 そうです。ステークホルダー毎にいた方がいいよねっていう風な話をされていて、そこ
そこ手が付いているという感じのものを最後まで引っ張ってやっていただく。

【立石】 では私やりますよ。

【前村】 分かりました。

【立石】 ちょっとすみません多分僕全部聞ききれてないんで。

【前村】 ここまでは今日話しましたよ、みたいなことは書いてお渡しします。

【立石】 すいません申し訳ない。さっきからも音がバリバリバリバリとうるさくて。

【前村】 そうですか。この3つのセッションの担当者が決まれば、あとは回せそうですかね？
なんか他に必要な分担作業ってありますか？山崎の方で案内文とかは書いてドラフトとして皆さんに
見ていただくっていうことで。

【山崎】 山崎ですけど、サブチームは作らないっていう方針だと理解しましたが、運営の方は
前回みたいに運営のサブチームみたいなものは作らず、ボランティアを募ってその人間でやるっていう
感じですかね？

【前村】 そうですね。それだとちょっと無理があるかな？会のロジというのかを回すのは事前
会合と割と似たような規模感なんですよ。

【山崎】 似たような規模感になるんじゃないかと思います。

【前村】 お手伝いいただける方、今挙手していただいたりなんかすると良さそうですかね？

【前村】 手は上がらないんですけどどうしようかな？個別にお願いしたりするのか個別にお願いするということにしましょうか。はいちょっと足りないピースがあるかどうかをチェックして個別にというのか個別なのかメーリングリスト上でコールするのははともかくとして、どなたかにお願いするということだと思います。

報告会に関してはこれくらいですかねっていうことですよね。ビジネスセッションで本格体制に関しては、継続的にメーリングリスト上の議論を喚起していきます。ふんわりしてはいますが、そんな感じにさせてください。そんなところでございましょうかね。

次回なんですけど、MAG 報告ってというのがたたき台にありますけど、MAG のミーティングってここまでの間にあるんですけど、如何ですか？河内さんミーティングがあるわけじゃないけどどんな感じでメーリングリストとかで進んでいるかみたいなことはあるかもしれないですね。

【河内】 すみません聞こえますか？

【前村】 聞こえています。

【河内】 この前先週ぐらいに見に来て、年内にミーティング1回できればいいんだけど、みたいなことを書いてあって、そこから見てたのですが、ちょっと次回までにあるかどうかわからないです。もしあれば何か報告をさせていただければと思います。

【前村】 多分こんな感じで常設になって、(ミーティング間の)3週間で何が起こったかっていうのをいただくっていう感じなんじゃないのかなと思います。よろしくお願いします。

【河内】 はい。

【前村】 それで報告会の詳細なんですけど、この時にはもう案内は出てるっていうことを想定しています。年内に出したいと思っていますということですね。

次回打ち合わせの時期なんですけれど、3週間を今からカレンダーで3週間ってやったら1月10日祝日だから11日ということになるんですけど、これで大丈夫でしょうか？無理ありますか？年末年始を考えると3週間ないじゃないか、みたいなことかもしれないけど、それだったらもう一週飛ばした方がいいのかなと思ったりもするんですけど、どう思います。ちょっとカレンダー見てみよう。

【立石】 現状だと次1月10日ですか。

【前村】 そうです。10日成人の日なんで火曜日にするのかなと。11日それで無理がないようだったらそうしますかね。

【立石】 私は構いません。

【前村】 では1月11日とするということで皆さん宜しいでしょうか？駄目っていう人は今駄目っていう時ですよ。大丈夫そうです。それでは1月11日ということにさせていただきます。その他何か共有事項などがありますでしょうか？ないようでしたら本日の活発化チーム会合はこれでお開きということにさせていただきます。今年最後となります。皆様よいお年を。来年はもっとスケールアップした活動になっていくと思いますので、がんばりましょう。ありがとうございました。